

(様式第6号 別紙)

### 長崎県福祉サービス第三者評価結果報告

① 第三者評価機関名

特定非営利活動法人福祉総合評価機構

② 事業者情報

名称：神ノ島愛児園	種別：認可保育所
代表者氏名：平山富志子	定員（利用人数）：50名（53名）
所在地：長崎市神ノ島町2丁目131番地 TEL095-865-1777	

\*施設・事業所情報は、事業所プロフィール参照

③ 施設・事業所の特徴的な取組

<p>◇保育の理念</p> <p>お告げのマリア修道会を母体とする宗教法人お告げのマリア修道会神ノ島愛児園は、「互いに愛し合いなさい」とのカトリックの愛の心で、児童福祉法に基づき、保育を必要とする乳幼児の保育を行う。</p> <p>保育にあたっては、子どもの人権や主体性を尊重し、児童の最善の幸福のために、保護者や地域社会と力を合わせ、児童の福祉を積極的に推進し、地域における家族援助を行う。</p> <p>◇保育の方針&lt;こんな保育の考えで&gt;</p> <p>カトリックの園として、あたたかい関わり合いの中で一人ひとりを大切にします。</p> <ul style="list-style-type: none"><li>・神さまの存在に気づき、祈りと感謝の心を育む</li><li>・子ども一人ひとりのありのままを受けとめる</li><li>・子どもの主体性を尊重する</li></ul> <p>◇保育の目標&lt;こんな子どもになってほしくて&gt;</p> <ul style="list-style-type: none"><li>・神さまと人と自然を大切にする子ども</li><li>・心も体も元気な子ども</li><li>・自分で考え、選び、行動する子ども</li></ul>
--

④ 第三者評価の受審状況

評価実施期間	令和6年10月9日（契約日）～ 令和7年4月11日（評価結果確定日）
受審回数（前回の受審時期）	2回（平成30年度）

## ⑤総評

### ◇特に評価の高い点

#### ■ 理念に基づいた子ども一人ひとりを尊重し、思いやりの心を育む保育

園では、“互いに愛し合いなさい”という理念の下、子どもの人権や主体性を尊重した保育の実践に向けて、全職員が共通の認識を持つことを大切にしている。その手立てとして、毎年、理念や基本方針に関する研修を全職員に実施し、浸透を図っている。更に、法人内研修を通じて、理念のより深い理解と実践力の向上へと繋げている。

また、朝のお集まりでのマリア様への挨拶、食事の祈り、聖母行列、七五三の集い、クリスマスキャンドルサービスなど、子どもが理念に触れる機会を設け、愛の心で日々の生活を送ることができるよう努めている。

園の保育実践マニュアルには、“子どもに寄り添う”という視点の下、子ども一人ひとりを尊重する方針を明記しており、性差や障がいの有無にかかわらず、すべての子どもを公平に受け入れ、適切に配慮しながら保育を実践している。日常の保育の中では、「困ったことがあったら助けようね」といった言葉掛けを大切に、子どもたちが思いやりの心を育めるように取り組んでいる。更に、障がいのある子どもや気になる子ども等への職員の関わり方を通じて、子どもたちも自然に助け合う姿勢を学ぶ様子が見られるようになっている。

このように理念に沿い、子ども一人ひとりを尊重し寄り添いながら、思いやりの心を育む保育は園の優れた点である。

#### ■ 子どもの成長を保護者と共有し、保育への理解を得るための取組

3歳未満児は“てつなぎ”やシール帳を活用し、3歳以上児はルクミーによる日中活動の配信の他、保護者の希望に応じて連絡帳を活用することで、密に情報共有を行っている。次年度からは新たな連絡機能の導入も検討しており、より円滑な連携を図る予定である。更に、送迎時の対話も大切にしており、日々の子どもの様子を保護者に伝えている。

年間行事計画を保護者へ配付することで、聖母行列、お楽しみ会、運動会、お遊戯会、保育参加週間、卒園式等の行事への参加を促し、子どもの成長を共に見守る機会を提供している。また、市の子育て週間に合わせて保育参加を実施し、家庭との繋がりを強化している。

職員会議の記録を通じて情報共有を行い、保護者面談を3歳以上児は全員、3歳未満児は希望者を対象に実施し、保護者の意向を反映しながら保育を進めている。また、クラス懇談会は全クラスで開催し、保護者との対話を大切にしながら、子どもの生活をより充実させるための連携を図っている。

園では、保育の意図や保育内容について保護者の理解を深める機会を設けながら、ともに子どもの成長を育むための取組は高く評価できる。

#### ■ 自然環境の活用や主体的な活動による保育の充実

園は、近隣公園での昆虫採集、木の実や落ち葉拾い、砂浜での貝殻探しなど、自然の豊かさを実感できる環境にある。また、畑での野菜栽培も子どもたちの楽しみとなっており、収穫の喜びも味わえるよう職員は援助している。

3歳以上児の主体的な活動は、子どもの成長に合わせており、職員は子ども本人の自発的な行動を大切に、保育を行っている。その中で、3歳児クラスの担任は、制服の着替えに手間取って遊びたいのに活動できないという状況を改善するために、ジャージでの登園や着脱が簡単なスモックの着用を提案しており、園長は提案を反映してスモックを導入していることは特長である。

3歳児クラスでは、朝から子どもたちにやりたい遊びを尋ねており、4歳児クラスでは、和太鼓の練習を通して仲間と合わせて一つのことをつくり上げる体験に繋げている。また、5歳児クラスでは、当番活動の他に班活動を取り入れ、メダカの餌やりのように一人でできることと、ゴミ出しや給食の配膳のように仲間と協力して行うことを経験している。

それぞれのクラスで、無理強いしない、強制しない、ゆったりと時間をとって準備することを心掛け、子どもが自信をもって主体的に活動が出来るよう職員が工夫を凝らして援助していることは、高く評価できる。

#### ◇改善を求められる点

##### ■ 職員一人ひとりの育成に向けた取組

園では今年度から、各職員が半期ごとに“上半期の反省と下半期の目標”として目標設定を行っている。個人面談は、上半期を9月頃に、下半期を年明けすぐに取り組んでいる。反省が主であり、目標についても改めて園長と共有し、今後に繋げている。また、園長からは研修の提案を行い、個人からは研修の希望を聞き取るなど、双方で共有している。

ただし、園長は目標設定を活かし、職員への助言指導をより深めていきたいとの思いがあるものの、時間がなかなか取れず、実践できていない状況にある。

今後は、職員一人ひとりの目標内容を更に明確に、また、それにより園長の助言指導を効果的に実施していくことに期待したい。

##### ■ ヒヤリハットを活かしたリスクマネジメント体制の構築

園では、安全対策やヒヤリハット事例の検討を行い、事故発生時の手順マニュアルや事故防止ハンドブックを活用し、緊急時対応のフローチャートを整備している。

保健安全計画に基づき、定期的な重点点検箇所の確認を行い、公園、施設、駐車場、消防用具等の具体的な安全対策を講じている。更に、クラス単位での情報収集やミーティングによる事例検討を行い、ヒヤリハットの評価および研修を通じて安全意識の向上に努めている。

緊急時には、救急車の要請や応急処置の手順を明確にし、心肺蘇生法や非常用押しボタンの使用方法を習得することで、迅速かつ適切な対応が可能となるようにしている。

ただし、ヒヤリハットの収集においては、事前事後の区別を明確にし、情報を集めやすい書面の工夫が求められる。今後の検討、取組が望まれる。

⑥第三者評価結果に対する施設・事業所のコメント

abc と見える形で評価をいただいたことで、自分に足りていないところ、改善すべきところが明確にわかり見直すきっかけとなりました。早急に改善に取り組み、よりよい環境を作っていくようにしたいと思います。

また、保護者の方からの温かいことばを受け、日頃から行っている保育や自分たちの在り方に自信を持つことができました。もっと子どもたちや保護者の声にしっかりと耳を傾けながら、子どもに寄り添った保育ができるよう職員全体で取り組んでいきたいと思っています。

⑦第三者評価結果

別紙の「第三者評価結果」に記載している事項について公表する。

⑧利用者調査及び書面調査の概要

(別紙)